

平成28年度 伊那市立伊那中学校評価表

学校関係者評価；（A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった） 自己（項目間相対を加味した到達度）評価（a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった）

1 教育理念 「愛」	重点目標（中長期的目標）		総合評価		
	向学の気風あふれる学校づくり		○今年度も全体に落ち着いた雰囲気です授業を行うことができました。84%の生徒が「私語をせずよく聴いて授業に参加している」と自覚している。 ○読書活動や家庭学習に力を入れ習慣化を図ってきた成果が、グランドデザインに位置付けた“基礎学力の向上とことばの力”の育成に結びついてきた。全国学調、PC調査では、全体的に平均を上回ることができた。家庭学習達成状況調査からは、学習する生徒としない生徒との差が大きいことが見えてきている。授業中理解できていない生徒への個別指導の必要性とともに、生徒個々の学力格差をどう解消していくか、アクティブラーニングを視点として考えていくことが必要である。		
	今年度の重点目標		成果と課題	評価	改善策・向上策
	(1) 授業改善と学習サイクルの構築を図る	(2) 集団への所属感を高める	(3) 自己有用感を育てる	○カリキュラムの再編、評価と支援の一体化を図り、生徒・保護者に発信した。家庭学習への取り組みもしっかり位置付き、1時間以上学習する生徒の割合も全体の83%になっている。 ○友を大切に作る心については、96%の生徒が自覚できているので大切にしたい。しかし、具体的な行動に移せなかったり、特定の友達だけを大事にしてしまったりする点で学校職員との意識の差が出ていることが課題である。 ○総合的な学習の時間を通して、体験的に学びを深めた。生徒も学習の内容に比較的充実感をもっているようである。(充実していた78%)	B b A b A a

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	教育課程	○楽しく、満足感のある教育課程の展開	○伊那中の生徒や地域の特色を生かした教育活動を展開することができたか。	○「ふるさと伊那谷学」を立ち上げ、地域のことを地域のひとと地域のやり方で学ぶ学習を展開した。総合的な学習の時間では、各学年とも地域の方を招聘して、農業、登山、キャリア教育等を行い、それぞれの目標を達成するとともに、生徒の地域への愛着を深めた。教科学習での地域学習をさらに充実させたい。	A a	○来年度も「ふるさと伊那谷学」を継続、発展させていく。本年度各学年で積み重ねてきた総合的な学習の時間の内容を、学年間のつながりや、学年内の展開の仕方等をよりよいものに練り直していく。また、教科における地域学習について、さらに魅力的な題材(素材)を各教科で考えていく。
		○生徒の気づきや発想を大事にした行事や生徒会活動	○生徒の発想や構想に基づく行事運営ができ、生徒会テーマ」を具体化する生徒会活動をつくることができたか。	○生徒会の運営や文化祭の企画・運営が生徒の手で作られよう支援し、感動的な活動を創造するとともに、充実感を持たせることができた。今年度は「みんなでつむぐ伊那中の『糸』」を目標に掲げ、生徒が同学年、異学年にかかわらず友のよいところを見いだす活動を、全校、学級を通して行えた。日常活動においても当番活動を地道に行う生徒の姿が多く見られた。	A a	○今後も各委員会の日常活動を大切にたえさせ、更に地に足をつけた生徒会活動にしていきたい。また、自分たちの学校を自分たちでよりよいものにしていくのだという気風を高めるため、生徒が自主的に全校集会を開いたり、クラスマッチ等の企画を自由に考えたりできるような支援をしていく。
	学習指導	○アクティブラーニングの展開	○生徒が必要感の持てる課題把握や、互いの考えを伝え合い、認め合うことを通して、本時のねらいを達成していく、主体的、対話的で深い学びを目指した授業ができたか。	○教育課程保健体育科の授業や伊那中公開授業などの研究や、全国学力学習状況調査採点研修などを通して、全職員がアクティブラーニングの重要性を共有し、自分の授業に生かしていった。対話的な活動はできてきたが、主体的、深い学びについてはこれから全校研究として深めていく必要がある。	B b	○全国学調や県PC調査の結果分析から授業改善へのPDCAサイクルを再確立し、全教科で「主体的、対話的で深い学び」についての実践、情報交換を行っていく。その際、生徒一人一人のよい点に着目し、教師の生徒を見る目を高めていく視点を大切にしてい
		○基礎学力の向上と“ことばの力”の育成	○問題解決をしていくうえで必要な、基礎・基本的な知識、技能を一人一人の生徒が身に付けることができたか。	○授業中「とけた」「できた」「わかった」と思える時がありますかの問いに、88%の生徒が肯定的である。自分から質問できるかの問いでは、昨年度の62%から60%に微減している。	B b	○授業終末段階での「みとどけ」をいねいに行い、一人一人の生徒がねらいを達成できたか見極め、必要に応じて補充保管指導を行うことを再確認する。毎週金曜日の朝に行っているチャレンジ学習は、次年度も継続的に行っていく。
	部活動	○主体的に部活動に取り組む生徒の育成	○生徒たちの自主的な活動により、心身の鍛錬ができ、個性の伸張がなされたか。	○個人と部・集団としての目標をもって活動に取り組めており、成果を出すことで自信を深めるような活動ができた。部活動に主体的に取り組んでいると評価した生徒は90%であった。生徒、指導者の負担の大きさが課題である。	A a	○学校の部活動と共に、社会体育の時間や外部指導者の方をお願いしながら運営を進めたい。生徒の意欲や健康状態、保護者の負担を考慮しながら、バランスの良い適正な部活動のあり方についてスポーツ活動運営委員会を中心に考えていきたい。
	生徒指導	○生徒理解に基づいた個々の生徒への指導	○明るい挨拶など心を通わせる活動、掲示物など生徒の心に響く活動、QUなど生徒を理解する活動を工夫した生徒への関わりができたか。 ○不登校生徒や保護者への対応が適切になされているか。	○QU検査を通して、生徒との関わりや生徒の意識の変化について研修し、学級経営の見直しを行ったり、下校時の全職員による生徒への声がけを行ったりして、生徒との関わりを深める取り組みをしてきた。人との優しい関わりが見られる場面が多くなってきている。不登校傾向生徒との関わりは恒常的に進めていきたい。	B b	○個々の生徒や集団の変化を見取れるようにQU検査等の活用や職員の関わりを来年度も続けていく。不適応生徒の支援に当たっては、今後も校内適応指導委員会を月1回開き支援対策を検討していく。スクールカウンセラー、心の教室相談員、院内学級等との連携を一層強めていく。また、伊那中央病院、心の医療センター駒ヶ根の医師とも連携していく。
		○社会的ルールを守り、身だしなみがきちんとした生徒の育成	○身なりがきちんとした服装で生活ができ、仲間や社会に迷惑をかけない言動がとれたか。	○多くの生徒は他人に迷惑をかけない生活習慣が身につけている。96%の生徒が中学生らしい服装で取り組んでいることを意識している。一部の自分をしっかりと律しられない生徒への関わりを深め、指導を続けたい。	A a	○生徒の心を耕す道徳等の指導を充実させると共に、生徒会風紀委員会や代議員などと協力しての呼びかけや、全職員での統一した指導を行うなどして、挨拶、服装への指導を継続していきたい。
学校運営	安全	○校内や通学途中の安全の確保	○校内や通学途中で不審者や事故に遭い、被害を受けることがなかったか。	○登下校時の歩行マナーについては、地域からの苦情もあり、たびたび指導する機会を持った。不審者等の情報はその都度生徒に伝え、対処の仕方を指導してきた。震災被害を想定した訓練や登下校中の避難行動などについて、保護者連絡などの整備を行っていききたい。	B b	○スクールガードに関する警察官による訓練や講習会、実際の車との衝突実験を見る機会を設けて一層の安全意識の高揚を図っていききたい。熊の出没情報については、今後も入り次第当該の生徒に伝え、注意を促すようにしていく。
		○情報社会に生きる生徒の安全指導	○情報化の中で被害に遭わない対処の仕方を身につけ、他人の権利を侵さない生徒の育成ができたか。	○全校集会でインターネットの危険性についての講習会を行った。また、教科学習や学級活動で機会を捉えて指導してきた。インターネットを利用する生徒やスマホ、携帯電話を持つ生徒への指導に加え、保護者へ啓発をしていきたい。	B b	○機会を捉えての学級での指導と共に、今後も1年に1回はネット(スマホ、携帯電話・パソコン)に関する学習会をもち、生徒にその危険性を喚起していききたい。保護者への啓発にも力を入れていく。
	地域との連携	○家庭との十分な意思疎通	○学校便りや学級通信を定期的に発行し、家庭との連絡が十分にできたか。 ○授業参観や公開を通して教育活動について保護者に理解してもらえたか。	○学年・学級通信も定期的に発行したり、必要なときは直接連絡をしたりしている。学校との意思疎通についての評価は学年が上がる毎に高まってきているので、今後もよい面も含めて生徒の姿を各家庭に伝えていきたい。	A a	○学校便り、学年・学級通信の発行を継続するとともに、授業参観・学年学級懇談会への出席を高められるように呼びかけ・企画等を工夫していきたい。
		○地域の行事などに積極的に参加する生徒の育成 ○地域の素材、人材の活用	○地域の行事に作品を出品したり、参加したりする生徒の育成ができたか。 ○地域の素材を活かした教材や保護者、地域の方に参画していただく授業や活動をすることができたか。	○資源回収ではピラ配りと回収など地域の方と関わる機会を大切に指導してきた。各家庭を回る際、回収のお願い、日時、回収の際のお礼がきちんと伝えられて気持ちよかったという声をいただいた。 ○ふるさと伊那谷学を通して、地域の方や企業とともに学習を行った。	A a	○地域の方から100%が「挨拶ができる生徒が多い」、89%が「身だしなみがきちんとした生徒が多い」との声をいただいた。一方で地域行事に参加できる生徒の割合が74%になっている。挨拶の大切さとおわせて、地域とのつながりをさらに生徒に考えさせていきたい。
研修		○自己課題を明確に据え、自己を磨く教師	○校内、校外の研修会などに積極的に参加し、自己を高めることができたか。	○校内研修としては研修を行った。教育センターでの研修などの校外研修へも積極的に参加して、専門性を高めることができた。	A b	○研修内容を校内で伝達し、全職員で学び合える場をさらに増やしていく。 ○次年度も全教科でアクティブラーニングを取り入れた授業改善をめざしていく。